

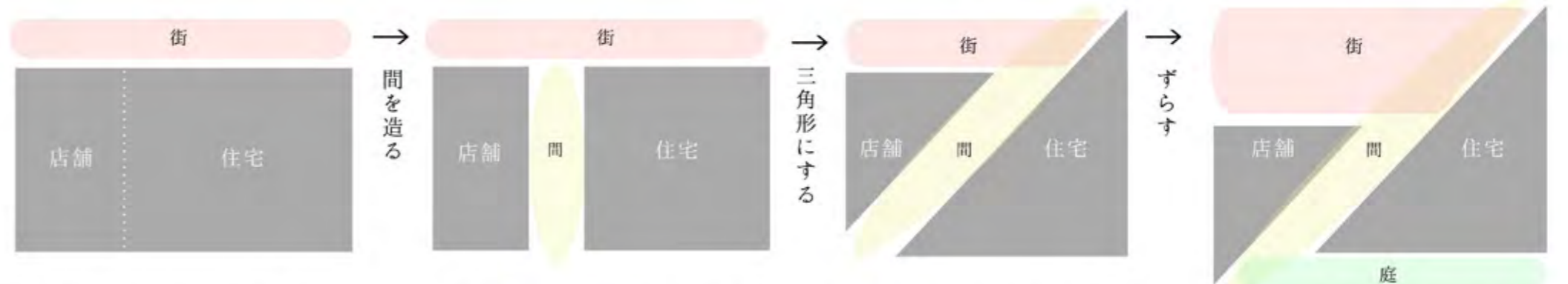


安城の店舗をもつ住宅

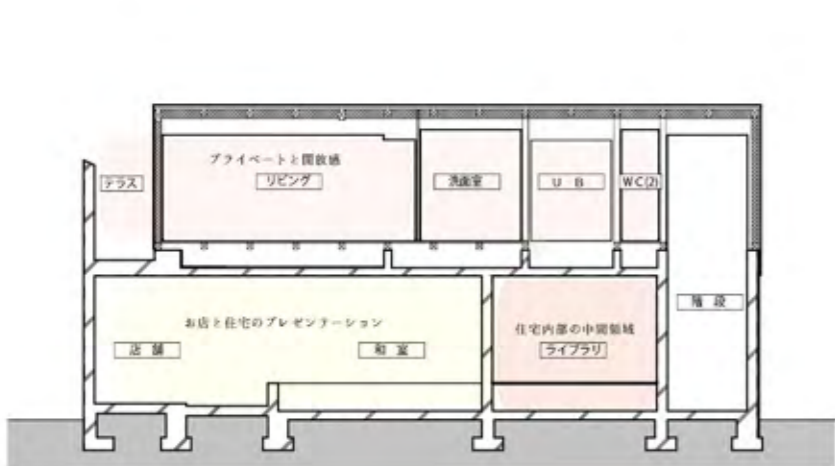
現代の「地方にある店舗」と「住宅」の在り方、「街」との関わり方について考えた。情報を個人で発信することができる時代になったため、店舗を人の集まる都会に設ける必要性が少なくなり、住宅では街の人と関わりを持つ機会が少なくなった。店舗と住宅との関わりを持つために、共有するスペース（土間）を設けた。住宅と店舗の2つの用途を持つ共有スペースがあることで、住宅と店舗をゆるやかに繋げることができる。その結果、家族と店に来る街の人とを結ぶことができる。そして、共有スペース（土間）での営みが建物外部へ続くことで、「街」に対して暮らしと店舗を広げることができる。街と住宅、街と家族、街と店舗の関係を築くことができ、この併用住宅を中心に、繋がりが広がっていくことを目指した。



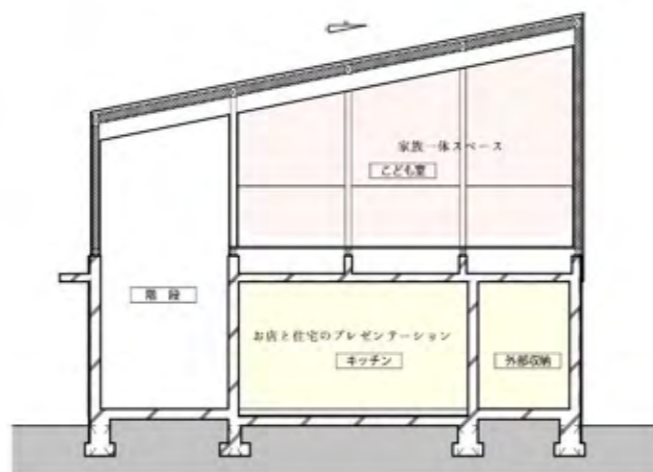
敷地は地方の都市にある大通りに面した場所。この街の特徴は、大通りが集まる中心地であり、大きな区画が三角形で構成されている点である。この中心地から、広がるように街はできている。



住宅と店舗を敷地が広いため並べて配置した状態。2つの用途がそれぞれ独立したものの。
 住宅と店舗の間に「間」を持たせた状態。共有スペースが生まれる。住宅と店舗をやわらかく区切ることができる。
 住宅と店舗の形状を街の特徴である三角形にする。共有スペースが長くなり、街と接する部分が生み出される。
 三角形の配置をずらすことにより、街と接する面積が増え、背後に庭が生まれる。街、店舗、住宅、庭を共有スペースが繋ぎ、街に広がっていく。

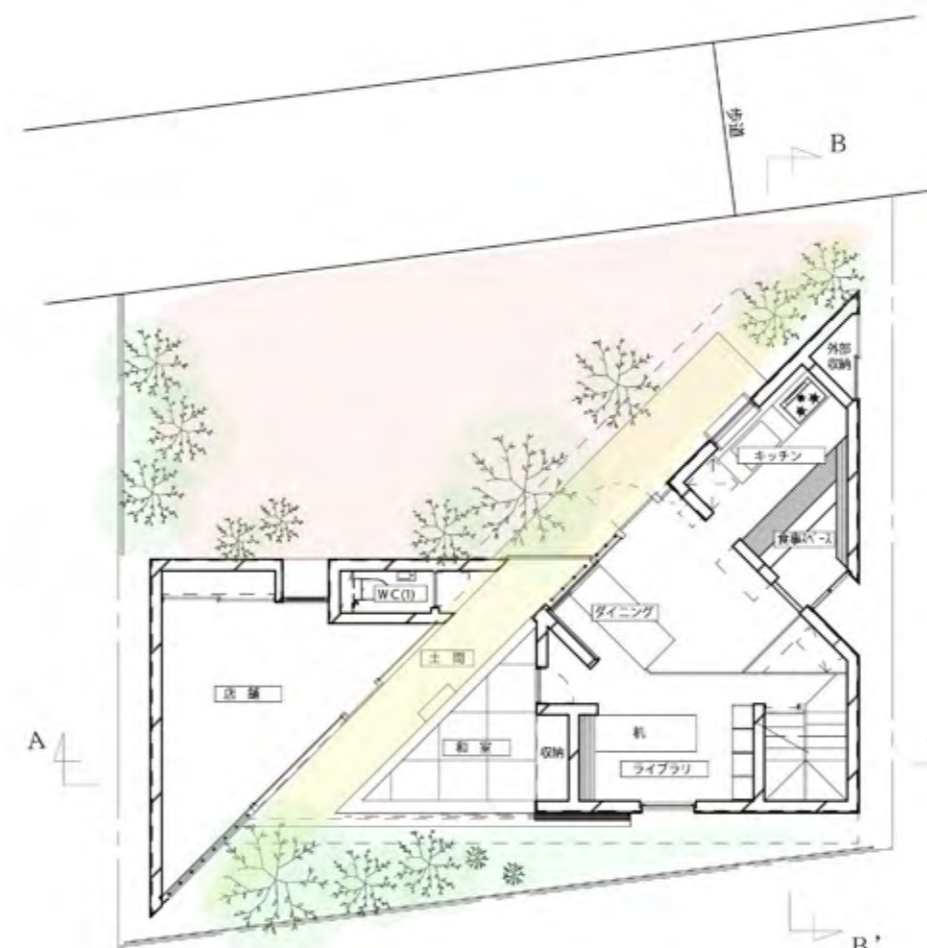


A-A' 断面図 1/150

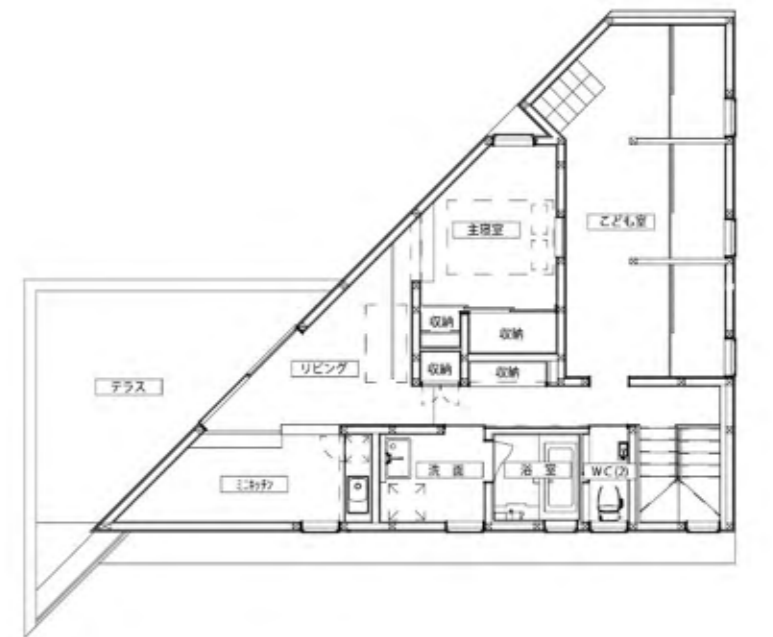


B-B' 断面図 1/150

1階のオープンな空間とは異なり、2階は外部からの視線を遮ったプライベートな空間になっている。家族との距離を近く感じられるようにするため、大きなワンルーム形式にしている。段差や腰壁によって空間を区切ることで、個々の居場所を造りながらも、1つの空間の中に家族が居られるようにした。



配置図兼1階平面図 1/150



2階平面図 1/150



前面道路から見る



ダイニング



2階子ども室



2階リビング



店舗入口から見る



庭から街を見る



奥の庭から店舗を見る



2階テラス